

# 宇治田原町教育委員会定例会議事概要

## 令和6年第2回

日 時 令和6年2月27日(火) 14時開会

場 所 宇治田原町役場 2階 会議室202

出席者

(教育長) 奥村 博巳

(教育委員)

教育長職務代理者 大嶋 良孝

委員 杉野 三千代

委員 川崎 文男

委員 播磨 幸博

(出席職員職氏名)

教育次長兼学校教育課長 黒川 剛

社会教育課長 立原 信子

学校教育課課長補佐 杉浦 恒

(書記職員職氏名)

学校教育課教育総務係長 星野 聖美

(傍聴者)

なし

- 1 開会 教育長が第2回宇治田原町教育委員会定例会の開会を宣言する。
- 2 教育長あいさつ
- 3 議事録承認

令和6年第1回宇治田原町教育委員会定例会議事録の承認

#### 4 議事

##### (1) 付議案件

日程第1から日程第4までを教育長の発議、全員挙手により非公開とする。

日程第1 (議案第2号) 令和6年度宇治田原町立小学校及び中学校管理職の異動について  
(全員挙手により議決)

日程第2 (議案第3号) 宇治田原町教育委員会表彰について  
(全員挙手により議決)

日程第3 (議案第4号) 宇治田原町教育委員会表彰について  
(全員挙手により議決)

日程第4 (議案第5号) 宇治田原町教育委員会表彰について  
(全員挙手により議決)

##### (2) 報告事項

ア 学校教育課所管事項について

- ・就学援助の認定について

(説明) 宇治田原小2件、維孝館中1件年度途中の申請があり、全て認定した。

・うじたわら学び塾の冬季報告について

(説明) 5種類10回の講座を開催した。今年度は残り3講座開催予定。新しくできた中央公園を利用して凧作り・凧あげをした他、京都大学理学部の学生の協力を得て、星空観察会を行った。

開催日	講座	参加人数	
		受講生	スタッフ
12/23(土)	わくわく英語 (初級)	20	7
12/25(月)	英語検定を目指して(4級)	10	7
12/25(月)	英語検定を目指して(5級)	19	7
12/26(火)	凧づくり・凧あげ	9	9
12/27(水)	漢字検定に挑戦(午前)	14	4
12/27(水)	漢字検定に挑戦(午前)	8	3
1/5(金)	英語検定を目指して(2, 準2級)	4	7
1/5(金)	英語検定を目指して(3級) 15	14	7
1/6(土)	わくわく英語 (中上級)	5	4
1/15(月)	星空観察会	18	18
2/17(土)	漢字検定	(未実施)	
3/2(土)	スクエアボッチャ+新体力テストに挑戦	(未実施)	
3/27(水)	高尾へハイキング	(未実施)	
合 計		121	73

(質疑)

〈委員〉 大学生が11人参加したということだが、サークルか何かの協力によるものか。

〈事務局〉 午前と午後に、両小学校で京都大学との連携事業として出前事業を実施した。

その参加者が放課後の事業にもスタッフとして参加してくれたもの。

・令和6年度教育の重点(案)について

(説明) 令和6年度の教育の重点(案)を作成した。学校教育については細かい文言の実状に合った整理が中心。令和4年12月に改訂された生徒指導提要にも準じる文言訂正を行っている。令和5年度分まではコロナ感染症防止対策の充実を掲げていたが、5類移行によりそこは削除している。社会教育については令和5年度に大きく体裁を替えており、それ以降の変更なし。教育の重点に含まれている新・放課後子ども総合プランに係る目標設定については年度のみの改定。子ども・子育て事業計画が令和6年度に改定となるため、新たな整備量や事業量見込を策定していく。

(質疑)

<委員> 先日の総合教育会議の中で事務事業点検の報告をされた。それは令和4年度の重点に基づいた評価だったが、5年度分は来年実施ということか。せつかく事業評価を行うのだから、もっと早い段階で行えば次年度の重点に反映させるということもできると思うが、1年のずれが出てくる。

<事務局> 事務事業評価の方は決算額を入れるので、どうしても10月以降になる。決算額を入れないのであればもう少し早い段階から報告書のとりまとめには着手できる。教育の重点については、ほぼ表現の修正で、柱となるものは変わっていない。単年での微調整は出てくると思うが、重点が毎年変わるというのもいかなものかと思う。

<委員> 重点目標1の中に小目標が11あるが、これをもっと絞れないか。11点同等に書いてあるが、その重みが各々違うように思う。他の重点目標でも同様のことが言えるので、現在の教育大綱が令和7年度までのため、その機会に見直しても良いのではないか。

<事務局> 令和3年度に京都府が学校教育の重点を抜本的に文言を替えて改訂し、町もそれに伴い府の重点とリンクしやすいように文言整備を行ったもの。確かに、重点でありながらも細部にわたった記載が出てきており、現場としては混乱するかもしれない。今後、できるだけ文言を整理できたらと考える。

<委員> 府の重点と重複する部分は簡易にして、宇治田原町として大事にすべきところを押し出すのがよいと思う。

#### ・令和6年度の教育委員会の関係予算について

(説明) 主要事項及び変更のあったものについて説明。学校教育課新規事業としては、こころの健康観察アプリの新規導入で、児童生徒が体調や気分を、全員配布しているタブレットで回答するもの。保護者から学校、学校から保護者への連絡をアプリ上で行うことも技術的に可能となる。一般管理費では航空会社に協力いただきキャリア教育を行う。また、共同調理場のボイラー設備のオーバーホールを予定している。令和4・5年度に実施したオンライン塾については、想定より参加者が少なかったため、新年度には計上していない。

社会教育課の大きな事業としては総合文化センター改修事業費。複数年で舞台設備等の改修を行うもので、令和6年度はホール設備改修の設計業務、舞台音響設備の改修、消防設備・空調設備等の改修を予定している。また宇治田原町児童育成施設整備事業費として、受け入れが上限に迫る利用状況となっている宇治田原児童育成施設で敷地内に建物を増設し、支援単位を2支援とするもの。令和5年度の補正予算で設計費用を計上していたが、設計に時間がかかっており、翌年度に繰り越したうえで設計を終え、新年度予算で建築にかかることになる。

(質疑)

<委員> 社会教育について、外国人住民が1割ほどとなるが、地域住民との交流があまりないように思う。図書館での多文化コミュニケーションのように図書館でやるのがいいのか、社会教育の一貫として講座のようなものをやるのか、もっと両者が近づくような形になればと思う。

<事務局> 工業団地にお勤めの外国人住民の方が多いので、会社にもお声掛けして、イベント周知をしていただいて参加いただいている。ボードゲームは日本のものではなく、世界のゲームを集めているので言葉なしでも一緒に遊べる、簡単な日本語でコミュニケーションをとるということをしている。図書館で行っているのは、図書館に外国語の図書もそろえており、その利用促進もかねているもの。今後は別の講座や、外国人の方の得意なところを活かした講座などもできないか考えている。次年度は総務課が京都府の制度を活用して日本語指導のボランティア養成を予算化していると聞いている。

<委員> 中学校部活動への指導員派遣だが、新たな予定などはあるか。また高校生通学費補助については前年と同額か。

<事務局> バレーボールで1名委嘱しているが、もう1名追加予定。できればバスケットでも指導者を探していきたいと考えている。通学費補助については変更なし。

<委員> スクールバスに湯屋谷の子を乗せることはできないか。また航空会社からパイロットとキャビンアテンダントが来られるということだが、従前は中国から友好大使が来られたかと思うが来年度はしないのか。オンライン授業については、今年度で終了とのことだったが、受講者の反応は。

<事務局> 湯屋谷の子については、登校時は出勤時間と重なるためバスの座席が確保できず徒歩であるが、下校時にはバス利用している。友好大使はここの予算でなく、今年も継続して行っている。オンライン授業については、受講された方はアンケートでよかったという感想をいただいているが、昨年に引き続き参加されたのは15人中5人で、それが結果なのかと思っている。当初は2学年の予定だったが、参加者が少ないため4学年に増やし、周知の機会を複数設けたが、それでも参加者が少なかった。

<委員> 経済格差というのはやっぱりあると思うので、お金はもったいないかもしれないが、学べる機会をつくってあげるということも大事なこと。2年で判断してしまうのは時期尚早かなと感じる。

<事務局> 経済的に厳しい方については、保健所がまったく同じ事業をしており、そちらは無料となっている。町内でも数名はそちらに参加しておられる。保護者が参加させたいと思っても当の子どもが嫌がるという話も何人か聞いている。参加人数が少ないと一人にかかる費用があまりにも高額になるため、他の事業に振り分けた方が有意義ではないかと考え計上していない。

<委員> 小中一貫教育推進事業費と、ふるさと応援キャリア教育事業は減額になっているが。

〈事務局〉 小中一貫の方は、事業を組み替えて違う科目で予算を確保しているので減額となっている。ふるさと応援キャリア教育は、2事業所分を確保していたが、その事業所を確保するのに苦慮しており、実態に合わせて1事業所分の予算とした。

〈委員〉 学力充実事業の補助教員は、担任を持ってもらうことはできないのか。そうすれば、ベテラン教員を全体の授業力アップのために使うということができると思うが。

〈事務局〉 募集もT2、学習補助というかたちでしており、勤務時間や待遇も大きく違うため、それは難しい。担任となると心のハードルも高くなり、働き盛りの人を町単費の待遇で確保するのは無理がある。

## 5 その他

・なし

## 6 閉会 教育長が第2回教育委員会定例会の閉会を宣言する。